

福祉法人経営学会大会に参加してきました

副理事長 兼 事業統括 上宮 俊一

1月25日(金)、有給休暇をいただき、標記学会(於:東京都港区くるまプラザホール)に参加してきました。本学会は社会福祉学者の京極高宣さんが発起され、今年度で8年目を迎えます。措置の時代から契約の時代へ転換したことに伴い、社会福祉法人にも経営理念が求められるようになりました。学会の目的は、福祉法人経営のあり方を探求し、社会福祉事業の経営に関する学術研究の発展に資することです。

冒頭、京極会長のほうから、『社会福祉法人の優位性』をテーマに講演がありました。本来、社会福祉法人は、市場や家族、地域では満たされない福祉ニーズの充足を担うものであるが、最近はいろんな面で変容が見られること、民間企業の参入が激しいものの、信頼性の面で社会福祉法人が圧倒的に有利である、などの示唆があり、報酬単価についても質的評価を導入するよう国にも求めているとのことでした。また、外国人職員を採用することで、職員全体の団結力が高まったり、公認会計士による監査は金銭面での負担は大きいものの、今まで気づけなかったことに気づけるチャンスに恵まれるなど、最近の社会福祉法人を巡る情勢についても言及がありました。

基調講演では、厚生労働省社会・援護局の川又局長から社会福祉連携推進法人についての説明がありました。かつては社会福祉事業を行う施設をつくるには、社会福祉法人を設立する必要があったことから、一施設一法人という形態が多数ありました。それが昨今、効率が求められる契約の時代、経営の時代にはそぐわなくなり、厚生労働省としても法人の合併を推進してきた経緯があります。しかし法人を合併するということは法人の設立理念を統合することを意味し、障壁が多すぎました。結果として、その中間形態である社会福祉連携推進法人が生まれてきたようです。社会福祉連携推進法人のメリットとしては、社会福祉法人を存続させたまま、業務を連携・共通化し、コストを削減できる点にあります。育成会も一考の余地はあると思いました。

続く記念講演では、神戸市にある社会福祉法人大慈厚生事業会の坂本統括部長から『経営理念を浸透させる組織づくり』についてお話がありました。これまでの法人は従来型のトップダウン組織であり、

職員のほとんどが少々不満を持っていたそうです。

そこで、あの大谷翔平選手も高校時代から実践していたという曼荼羅チャート(目標達成シート)を用いて、経営理念を浸透させる組織づくりを目標に掲げ、個人の目標と組織の目標を繋げる取り組みを実践されました。当初は業績の悪化、自己防衛や他者への責任転嫁など組織運営のバッドサイクルが生じていたようですが、積極的なチームビルディングにより、お互いを助け合い、新たなチャレンジが生まれ、法人内の事業所関係が良くなり、ひいては業績の向上に繋がるグッドサイクルを生み出した経験談を紹介していただきました。コロナ禍でバッドサイクルに陥る事業所が多い中、いかに組織の団結力を高めていくかが最重要課題との示唆がありました。

お話をうかがいながら、法人経営は目の前の数字を追うのではなく、組織内部の環境調整に重点をおくべきだということ再認識できた気がします。🍀

大阪市育成会会員だより



《2月支部連絡会について》

※会場の都合(改修工事のため)により、参集では開催しません。

但し、YouTubeで配信します。

活動報告(12月16日から1月15日まで)

| 活動日 | 内容 |
|-------|--------------------------------------|
| 12/18 | 第49回クリスマスをつどい (大阪市長居障がい者スポーツセンター) |
| 12/22 | 学校評議会 (大阪教育大付属特別支援学校) |
| 1/8 | 仲間づくりの教室 (阿倍野市民学習センター) |
| 1/10 | 大阪府市育成会役員懇談会(府立福祉情報コミュニケーションセンター) |
| 1/14 | 障がい者差別解消市民啓発講座 (早川福祉会館) |
| | 2023年ウインズ新年の集い (ホテル阪急インターナショナル) |